活動記録

1　規定等

⑴ 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター規則

平成31年４月１日、規則第25号

（趣旨）

第１条　この規則は，国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第２項の規定に基づき，愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　センターは，四国遍路の歴史的諸相及び現代の多様な実態を学際的に解明し，日本及び世界各地の巡礼との比較研究を行うとともに，学術面から地域文化の発展に貢献することを目的とする。

（研究部門）

第３条　前条の目的を達成するために，センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

⑴　国内研究部門

⑵　国際研究部門

（組織）

第４条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。

⑴　センター長

⑵　兼任教員

⑶　協力研究員

⑷　その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

２　センターに，前項のほか，副センター長及び特定職員である教員を置くことができる。

（管理機関）

第５条　センターの管理運営に関する重要な事項は，愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「推進会議」という。）において審議する。

（運営委員会）

第６条　センターの運営に関する事項を審議するため，センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

２　運営委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（センター長）

第７条　センター長は，愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから推進会議が推薦し，学長が選考する。

２　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第８条　副センター長は，本学の専任教員又は特定職員である教員のうちから，センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し，学長が選考する。

２　副センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（兼任教員）

第９条　兼任教員は，本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから，センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し，学長が任命する。

２　兼任教員の任期は，２年以内とし，再任を妨げない。

（協力研究員）

第10条　協力研究員は，本学の専任教員及び名誉教授のうちから，センター長が委嘱する。

２　協力研究員の任期は，２年以内とし，再任を妨げない。

（職務）

第11条　センター長は，センターの業務を掌理する。

２　副センター長は，センター長の職務を補佐し，センター長が不在又は事故があるときは，その職務を代行する。

３　センターの特定職員である教員は，センター長の職務を助け，センターの業務を遂行する。

４　兼任教員は，センターの業務を遂行する。

５　協力研究員は，センターの業務に協力する。

６　センター職員は，センターの業務に従事する。

（客員研究員）

第12条　センターに，客員研究員を置くことができる。

２　客員研究員の選考は，愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（研究協力者）

第13条　センターに，研究協力者を置くことができる。

２　研究協力者は，センター長があらかじめ定めた期間，センターの研究活動を補助する。

３　研究協力者は，センターの研究に係る知識及び経験を有する者のうちから，センター長が委嘱する。

（事務）

第14条　センターに関する事務は，社会連携支援部及び法文学部事務課において処理する。

（雑則）

第15条　この規則に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，別に定める。

附　則

１　この規則は，平成31年４月１日から施行する。

２　愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター規程（平成27年４月１日制定）は，廃止する。

⑵ 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会規程

平成31年４月１日制定・規則第26号

（趣旨）

第１条　この規程は，愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター規則第６条第２項の規定に基づき，愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条　運営委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

⑴　愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。

⑵　センターの予算及び決算に関すること。

⑶　その他センターの運営に関すること。

（組織）

第３条　運営委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

⑴　センター長

⑵　副センター長（副センター長を置く場合に限る。）

⑶　センターの特定職員である教員（特定職員である教員を置く場合に限る。）
⑷　センターの兼任教員　若干人
⑸　社会連携支援部長
⑹　その他委員長が必要と認めた者
2　前項第４号の委員は，センター長が指名する。
3　第１項第６号の委員は，運営委員会の議を経て委員長が推薦し，学長が任命する。
4　第１項第６号の委員の任期は，センター長の任期の末日を超えない範囲でセンター長が定めることとし，再任を妨げない。
（委員長）
第４条　運営委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。
2　委員長は，運営委員会を招集し，その議長となる。
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　運営委員会は，委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
2　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第７条　運営委員会は，専門的事項を調査検討するため，専門委員会を置くことができる。
2　専門委員会に関する事項は，運営委員会が定める。
（事務）
第８条　運営委員会に関する事務は，社会連携支援部において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，運営委員会の運営に関し必要な事項は，運営委員会が定める。
附　則
1　この規程は，平成31年４月１日から施行する。
2　愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会規程（平成27年４月１日制定）は，廃止する。

⑶ 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金規程　平成31年４月１日・規則第27号

（設置）
第１条　愛媛大学に，愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金（以下「四国遍路研究基金」という。）を置く。
（目的）
第２条　四国遍路研究基金は，愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「センター」という。）の研究，教育，地域貢献の充実等に資することを目的とする。
（事業）
第３条　四国遍路研究基金は，前条の目的を達成するための事業に充てる。
（基金の構成）
第４条　四国遍路研究基金は，四国遍路研究基金への寄附金をもって構成する。
（基金の管理運営）
第５条　四国遍路研究基金の管理運営に関する事項は，センター運営委員会の議を経て，センター長が決定する。
（寄附金の受入等）
第６条　四国遍路研究基金への寄附金の受入れ等に関しては，国立大学法人愛媛大学寄附金取扱規則の定めるところによる。
（事業年度）
第７条　四国遍路研究基金の事業年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月31日に終わるものとする。
（事務）
第８条　四国遍路研究基金に関する事務は，社会連携支援部及び法文学部事務課において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，四国遍路研究基金に関して必要な事項は別に定める。
附　則
1　この規程は，平成31年４月１日から施行する。
2　愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金規程（平成29年１月18日制定）は，廃止する。

⑷ センター紀要投稿規程

1　四国遍路・世界の巡礼研究センターの発行する研究紀要『四国遍路と世界の巡礼』へ投稿できる原稿の内容は、四国遍路と世界の巡礼に関する研究論文、資料紹介、書評等とする。
2　投稿資格は、同センターの構成員（センター員、協力研究員）とする。但し、同センターの開催する研究会で報告するなどして、同センターから投稿依頼を受けた者も資格を有する。
3　同センター長は、本書の編集に関して、若干名の編集委員を指名して、編集を行うことができる。編集委員は年度毎に、予算の範囲で、本書の内容・分量を定め、編集を行い、投稿者に掲載の有無等を連絡する。
4　本文は、日本語の場合、A４縦判、横書き、10ポイント、48字×46行、９頁（400字詰原稿用紙50枚）以内とし、外国語や縦書き記載を希望する場合もこれに準じるものとする。但し、頁数は、編集上の理由で増減することがある。上記内容には、題名、著者名、所属、15～18行程度の英語要約文、参考文献、図表・写真、本文日本語訳等を含む。
5　要約文の締め切りは11月30日、本文の締め切りは１月10日を原則とする。締め切りの変更がある場合は、編集委員から連絡する。
6　原稿は原則として、編集委員もしくは同センター宛に電子データをメールで投稿する（センターアドレス：hennro.center.ehime@gmail.com）。
7　写真・図版の掲載許可は、著者が行い、掲載必要経費も著者が負担する。
8　原稿は原則として、本書刊行後、一定期間を経て、同センターホームページや愛媛大学図書館ホームページで公開するものとする。公開を希望しない場合は、事前に申し出るものとする。
附　則
本規程は、平成28年７月１日より施行する。

⑸『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会と国立大学法人愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センターとの連携協力に関する協定書

令和２年１月25日締結

『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会普遍的価値の証明部会（以下「甲」という。）と、国立大学法人愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「乙」という。）は、四国遍路の基礎研究や国内外の類似資産に関する資料収集や比較研究などを通じて、四国遍路の世界遺産登録に向けて協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は甲及び乙それぞれが有する知識や情報等を活用しながら、我が国を代表する巡礼文化である四国遍路の適切な保全を行い、四国の活性化を図るため、四国遍路の世界遺産登録を目指す活動に連携・協力して取り組むことを目的とする。

（連携協力事業）

第２条　甲及び乙は、前条の目的を実現するために、次に掲げる事項について連携し協力する。

⑴　四国遍路の歴史や民俗など諸分野における調査研究に関すること。

⑵　四国遍路の国内外の類似資産についての情報収集や調査研究に関すること。

⑶　研究成果の公開や啓発活動による四国の地域活性化に関すること。

⑷　その他甲及び乙が必要と認めること。

（連携事業の実施）

３条　前条に掲げる事業等の具体的な実施に関しては、この協定に基づき、双方で協議して行う。

（秘密等の保持）

第４条　甲及び乙は、連携により知り得た秘密及び関係者の個人情報を、相手方の事前の承諾なく第三者に提供若しくは漏洩し、又は第１条に規定する目的以外に利用してはならない。

２　甲及び乙は、この協定が次条の有効期間の満了又は第６条による解除により効力を失った後も、前項の規定による秘密保持等の義務を負う。

（協定の有効期間）

第５条　この協定の有効期間は、締結日から３年間とする。ただし、有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙のいずれからも申出がない場合は、さらに３年間延長するものとし、その後も同様とする。

（協定の解除）

第６条　甲及び乙は、相手方に対して30日前までに書面による通知をなすことにより、相手方に何らの責任を負うことなく本協定を解除できる。

（連絡窓口の設置）

第７条　甲及び乙の連携協力を円滑かつ効果的に推進するため、甲は『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会内に、乙は乙内に窓口を設置する。

（その他）

第８条　この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じた場合は、甲及び乙が誠実に協議の上、決定する。

この協定の成立を証するため、本協定書を２部作成し、それぞれ１部を保有する。

令和２年１月25日

甲　『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会　普遍的価値の証明部会　部会長　筧　善行

乙　国立大学法人愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター　センター長　胡　光

⑹ 研究部門と構成員

二つの研究部門を設けて、連携をとりながら学際的共同研究と地域貢献を進める。法文学部本館２階の一室を共同研究室ならびに収蔵施設として利用する。

①国内研究部門

四国遍路や日本の巡礼の古代から現代までの歴史的諸相を、学際的に解明するとともに、現代遍路の多様な実態を社会学的調査などを用いて具体的に明らかにする。

〈歴史文化研究班〉

胡　　光　　法文学部（日本史）◎
中川　未来　　法文学部（日本史）
西　　耕生　　法文学部（日本文学）○
神楽岡幼子　　法文学部（日本文学）
田中　尚子　　法文学部（日本文学）
青木　亮人　　教育学部（日本文学）＊
内田九州男　　愛媛大学名誉教授（日本史）＊
寺内　　浩　　愛媛大学名誉教授（日本史）＊
川岡　　勉　　愛媛大学名誉教授（日本史）＊４.１～

〈現代社会研究班〉

兼子　　純　　法文学部（地理学）
石黒　聡士　　法文学部（地理学）
野崎　賢也　　法文学部（社会学）＊
井口　　梓　　社会共創学部（観光文化論）＊
竹内　康博　　愛媛大学名誉教授（民法）＊
竹川　郁雄　　愛媛大学名誉教授（社会学）＊

②国際研究部門

世界各地に数多く存在する巡礼の歴史や現在の実態を明らかにするとともに、四国遍路との国際比較を行う。

高橋　弘臣　　法文学部（アジア史）○
水野　　卓　　法文学部（アジア史）
齋藤　貴弘　　法文学部（西洋史）
中根　隆行　　法文学部（比較文学）
田島　篤史　　法文学部（ドイツ文化）
山川　廣司　　愛媛大学名誉教授（西洋史）＊
加藤　好文　　愛媛大学名誉教授（英米文化）＊
吉田　正広　　愛媛大学名誉教授（西洋史）＊４.１～
菅谷　成子　　愛媛大学名誉教授（東南アジア史）＊４.１～

【註】◎ センター長、○ 副センター長
無印：兼任教員、＊ 協力研究員（12.31現在）

〈運営委員会〉

胡光（委員長）、西耕生、高橋弘臣、中川未来、
藤田英之（社会連携支援部長）

2　活動記録と社会の動き

【令和４年１月１日～12月31日】

１月５日　竹川郁雄『四国遍路の現代「お接待」と歩き遍路』が愛媛出版文化賞受賞
１月19日　伊予市文化財保護審議会（胡）伊予市
１月20日　地域協働センター西条運営委員会(胡)オンライン
１月22日　災害文化と地域形成史研究会（寺内、中川、胡）オンライン
１月24日　社会連携推進会議（胡）
１月25日　愛媛出版文化賞受賞式（竹川）
１月31日　松山商工会議所来室（胡）
１月31日　地域協働センター西条運営委員会(胡)オンライン
２月３日　松山商工会議所会議（胡）松山市
２月４日　文系センター合同シンポジウム配信（～３.31）
２月６日　歴史文化資料保全西日本大学協議会（胡、中川）オンライン
２月７日　高知県史会議（胡）オンライン
２月10日　社会連携企画会議（胡）オンライン
２月17日　坂の上の雲ミュージアム訪問（胡ほか）松山市
２月17日　社会連携推進会議（胡）オンライン
２月19・20日　全国史料ネット研究交流集会・島根（胡）オンライン
２月22日　中四国図書館協議会講演（胡）
２月24日　四国遍路普遍的価値研究会（胡）オンライン
２月24日　香川県文化財保護審議会（胡）オンライン
３月２日　新居浜市史会議（胡）新居浜市
３月２日　四国遍路普遍的価値研究会（胡）高松市
３月６日　愛媛県歴史文化博物館・四国遍路と弘法大師空海シンポジウム（胡）西予市
３月10日　社会連携推進会議（胡）
３月10日　四国遍路普遍的価値研究会（胡）オンライン
３月11日　道後温泉協議会（胡）オンライン
３月17日　坂の上の雲ミュージアム訪問（胡ほか）松山市
３月18日 ミュージアム運営委員会（胡-中川）オンライン
３月18日　旧家調査（胡・中川）松山市
３月19日　史錬会（胡・中川ほか）松山市
３月19-20日　全国資料ネット会議（胡）オンライン
３月22日　社会連携企画会議（胡）
３月22日　道後温泉協議会（胡）オンライン
３月23日　宇和島市資料返還式（胡・中川ほか）宇和島市
３月23日　四国遍路資料調査会議（寺内-川岡-胡）松山市
３月24日　石鎚黒茶調査委員会（胡）オンライン
３月25日　紀要発送（寺内・胡・中川ほか）
３月28日　愛媛県庁協議（胡）松山市
３月30日　熊本大学科研報告（胡）オンライン
４月４日　伊予銀行文化振興会議（胡）松山市
４月10日　ミュージアム・仏の世界展撤収（胡ほか）
４月13日　教育研究評議会（胡）
４月15日　松平公益会協議（胡）高松市
４月16日　地方史研究協議会（胡）オンライン
＊４月16日～５月29日　徳島城博物館「真言宗御室派の寺宝と四国・徳島」展示協力
４月18日　史跡丸亀城調査整備委員会（胡）丸亀市
４月18日　社会連携企画会議（胡）オンライン
４月20日　地域協働センター西条運営委員会(胡)オンライン
４月22日　愛媛県歴史文化博物館来訪協議（胡）
４月23日　資料ネット研究会（胡）オンライン
４月25日　社会連携推進会議（胡）
４月28日　新居浜市史会議（胡）新居浜市
５月８-９日　高知県史会議（胡）高知市
５月13日　大洲市教育委員会来訪協議（胡）
５月14日　徳島城博物館調査（胡）徳島市
５月16日　文系センター運営委員会（胡）
５月17日　社会連携推進機構長協議（胡ほか）
５月18日　教育研究評議会（胡）オンライン
５月19-20日　日欧シンポジウム講演（胡）東京
５月22日　今治史談会講演（胡）今治市
５月23日　社会連携推進会議（胡）
５月29日　世界遺産講演（胡）西条市
５月30日　地域協働教育研究事業審査会（胡）
６月１日　商工会議所全国大会遍路講演（胡）松山市
６月２日　センター運営協議会（胡・西・高橋・中川ほか）オンライン
６月10日　久松常盤会来訪協議（胡ほか）
６月15日 ミュージアム運営委員会（胡）オンライン
６月15日　教育研究評議会（胡）オンライン
６月20日　社会連携推進会議（胡）
６月21日　都市の世界史講演（菅谷）「スペイン植民地都市マニラ」オンライン
＊６月22日　国史跡「遍路道」追加指定（大寶寺・岩屋寺・志度寺境内、浄瑠璃寺道）
６月23日　愛媛県生涯学習センター訪問（胡ほか）
６月26日　大洲市神社調査（胡ほか）大洲市
６月29日　伊予市文化財保護委員会（胡）伊予市
６月30日　高知県史会議（胡）オンライン
７月２日　香川県立ミュージアム協議（胡）高松市
７月７日　四国遍路資料調査会議（寺内-川岡-胡）松山市
７月８日　愛媛県生涯学習センター遍路講演（胡）松山市
７月13日　教育研究評議会（胡）オンライン
７月14日　社会連携推進会議（胡）
７月14日　ミュージアム運営委員会（胡）オンライン
７月16日　徳島県立博物館調査（胡）徳島市
７月19日　四国遍路世界遺産登録推進協議会（中川）オンライン
７月21日　南海放送ラジオ収録（胡）松山市
７月24日　大洲市神社調査（胡ほか）大洲市
７月25日　社会連携企画会議（胡）メール
７月30日　『四国遍路と世界の巡礼（上）ー最新研究にふれる八十八話』（創風社出版）刊行
７月30日　南海放送ラジオ放送（胡）
７月30日　香川県神社調査（胡）高松市
７月30日　全国資料ネット研究会（胡）オンライン
７月31日　ミュージアム・聖地へのあこがれ展陳列
８月１日　四国遍路と世界の巡礼研究会　オンライン22名
【研究報告】「四国遍路と食文化」胡光、「大正６年自転車遍路日記」井上淳（愛媛県歴史文化博物館）
８月５日　特別名勝栗林公園運営委員会（胡）高松市
８月７日　香川歴史学会（胡）高松市
８月８日　学長協議（機構長・胡ほか）

8月17日　愛媛県札所調査会議（胡）松山市
8月22日　道後温泉協議会（胡）オンライン
8月25日　社会連携推進会議（胡）オンライン
8月25日　旧家調査（胡）西条市
8月29-31日　ミュージアム博物館実習（寺内・胡・中川）
9月1日　松山商工会議所世界遺産講演（胡）松山市
9月2日　愛媛県隣保館実務担当者研修会講演（中川）松山市
9月3-4日　香川県立ミュージアムと善通寺合同調査（胡ほか）高松市
9月5-6日　徳島城博物館と国分寺共同調査（胡ほか）徳島市
9月6日　四国遍路普遍的価値研究会（胡）高松市
9月9日　大野原世界遺産講演会（胡）観音寺市
9月10・11日　熊本大学科研会議（胡）熊本市
9月11日～10月2日　ドイツ・オーストリアの巡礼教会調査（田島）
9月12日　大洲市神社調査（胡ほか）大洲市
9月13日　南海放送ラジオ収録（胡）
9月14日　教育研究評議会（胡）オンライン
9月15日　社会連携推進会議（胡）
9月16日　愛媛新聞社取材（胡）
＊9月17日～11月27日　愛媛県歴史文化博物館「浄土寺・浄瑠璃寺と写し霊場」開催
9月22日　新居浜市来訪（胡）
＊9月23日～11月6日　香川県立ミュージアム「風景が物語る瀬戸内の力」開催
9月24日　全国資料ネット研究会（胡）オンライン
9月28日　伊予銀行文化振興会議（胡）松山市
10月1・2日　山口県文書館調査（川岡）山口市
＊10月1日～11月20日　愛媛県美術館「国宝高野山金剛峰寺展」開催
10月2日　南海放送ラジオ放送「ラジオ遍路」（胡）
10月3日　新居浜市史会議（胡）新居浜市
10月6日　社会連携企画会議（胡）オンライン
10月6日　史跡丸亀城調査整備会議（胡）丸亀市
10月9日　南海放送ラジオ放送「ラジオ遍路」（胡）
10月11日　道後温泉現地授業（胡）松山市
10月12日　ひみつジャナイ基地遍路展陳列（胡）松山市
10月12日　教育研究評議会（胡）オンライン
＊10月15日～11月27日　徳島県立博物館「阿波の旅人ー旅と名所の江戸時代ー」開催
10月16日　南海放送ラジオ放送「ラジオ遍路」（胡）
10月20日　高齢者大学世界遺産講演（胡）松山市
10月20日　香川・愛媛クラブ講演（胡）高松市
10月21日 香川県立ミュージアム運営委員会（胡）高松市
10月23日　大洲市神社調査（胡ほか）大洲市
10月25日　社会連携推進会議（胡）
10月28日　まちなか大学世界遺産講演（胡）松山市
10月29日　公開講演会・研究集会／南加記念ホール
【挨拶】若林良和（愛媛大学理事・副学長、社会連携推進機構長）、胡光（センター長）
【講演】浅川泰宏（埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授）観音巡礼のフィールドワークからの逆照射ー四国遍路と比較巡礼論
【研究報告】近藤隆二郎（元滋賀県立大学環境科学部教授）写し巡礼における身体・空間・時間／大本敬久（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員）四国遍路に関する民俗文化財の継承と課題ー世界遺産への取り組みと保護・活用ー／大原志麻（静岡大学人文社会科学部教授）比較巡礼論に向けてーサンティアゴ巡礼路・熊野古道・四国遍路の比較からー
【シンポジウム】四国遍路と比較巡礼論／コーディネーター　胡光／登壇　講演・報告者
【挨拶】井口秀作（法文学部長）
【共催】愛媛大学法文学部、愛媛大学人文学会、四国遍路世界遺産登録推進協議会
会場参加81名、web参加38名。
10月30日　愛媛県歴史文化博物館調査（モートン常慈、松永友和、岡本佑弥）西予市
10月30日　スペイン史学会報告（菅谷）「スペインのフィリピン統治がもたらしたもの」オンライン
11月2日　ひみつジャナイ基地遍路展撤収（胡）松山市
11月6日　愛媛県歴史文化博物館調査（胡）西予市
11月9日　教育研究評議会（胡）
11月10日　昭和会講演（胡）松山市
11月11日　全国資料ネット研究会（胡）オンライン
11月13日　仁和寺の写し霊場調査（田島）京都市
11月14日　松山商工会議所会議（胡）松山市
11月18日　社会連携推進会議（胡）オンライン
11月23日　全国資料ネット研究会（胡）オンライン
11月25日　道後温泉協議会（胡）オンライン
11月26日　西条センター世界遺産講義（胡）西条市
11月27日　四国遍路まちづくり講座講演（胡）善通寺市
11月28日　道後温泉現地授業（中川）松山市
11月30日　明石寺調査（松岡明子）西予市
12月2日　愛媛県歴史文化博物館運営委員会（胡）西予市
12月4日　大洲市神社調査（胡ほか）大洲市
12月9日　社会連携企画会議（胡）
12月11日　大洲市神社調査（胡ほか）大洲市
12月14日　教育研究評議会（胡）オンライン
12月17日　歩き遍路授業・宇和島駅～龍光寺～仏木寺～明石寺（寺内・胡・中川・田島）宇和島・西予市
12月18日　資料保全西日本大学協議会（胡）オンライン
12月19日　附属高等学校高大連携授業（中川）松山市
12月22日　生涯学習センター訪問（胡ほか）松山市
12月23日　社会連携推進会議（胡）
【註】＊印は、社会の動き。センターへ寄せられた多数の質問・要望への回答記録は割愛した。

【論考・刊行物】令和4年1月～12月
青木亮人『愛媛 文学の面影』中予編、南予編、東予編（創風社出版）5/15、8/30、8/30
胡光「愛媛資料ネット」『地域歴史文化継承ガイドブック』文学通信、3/1
胡光「近世・近代における伊予国の茶」「小松藩会所日記に見る茶記事」『石鎚黒茶製造技術調査報告書』、3/31
胡光「四国遍路・世界の巡礼研究センター」『法文学部研究ニューズレター』6、3/30
田島篤史「名医か、やぶ医者かーハンス・ザックス謝肉祭劇第11番『阿呆の切開手術』における「医者」とルター的万

人祭司ー」『独逸文学』66、3/20
▼『四国遍路と世界の巡礼』第7号、3/25
◆論考 四国遍路編「伊予国分寺と脇屋義助廟ー札所と史蹟ー」村上紀夫＊、「四国遍路と白山信仰ー『菅生寺』の分析を中心としてー」村上由実子＊、「四国遍路の札所における大師堂」松岡明子＊、「世界の人々が歩く理由ー遍路道の小さなゲストハウスからー」鷲野陽子＊、「アメリカからの四国遍路巡拝団の歴史」モートン常慈＊ ◆論考 世界の巡礼編「アショーカ王の巡礼譚にみるインド仏教の巡礼ー仏典に描かれる巡礼とその実際ー」岡田英作＊ ◆活動記録
▼『四国遍路と世界の巡礼ー最新研究にふれる八十八話ー』上巻（創風社出版）7/30、愛媛大学基金による刊行
01中世の四国巡礼（川岡勉）／02法房標石と太山寺の札挟み（今村賢司＊）／03宇和島藩の遍路統制と番所（井上淳＊）／04江戸時代の行き倒れ遍路をめぐって（岡本佑弥＊）／05「寄り道」する遍路（御厨義道＊）／06北条の「へんろ」の墓と俳人高浜虚子（青木亮人）／07明治初期の遍路統制 一法的根拠の変化一（中川未来）／08戦時下の五ヶ所・十七ヶ所参りについて（岡本佑弥＊）／09質問紙調査から見る現代の四国遍路(1)（竹川郁雄）／10質問紙調査から見る現代の四国遍路(2)（竹川郁雄）／11霊地足摺岬（岡本桂典＊）／12近代短歌や俳句に見る石手寺の香煙、塔（青木亮人）／13石手寺の変遷と熊野信仰（川岡勉）／14太山寺と伊予の霊場（胡光）／15太山寺参道の茶屋（今村賢司＊）／16本山寺の開帳（胡光）／17明治に建てられだ本山寺五重塔（野村美紀＊）／18善通寺の仁王像（松原潔＊）／19六国史に記された空海の生涯（大本敬久＊）／20空海の漢詩文集『性霊集』（大本敬久＊）／21四国霊場開創1200年の真実（胡光）／22衛門三郎伝説と熊野信仰（寺内浩）／23太山寺《弘法大師像》をめくる近年の動き（長井健＊）／24四国遍路のはじまり（寺内浩）／25「まなび」と「山踏み」ーヘチをめぐる文学語誌ー（西耕生）／26四国遍路の形成と聖・山伏（長谷川賢二＊）／27武士の四国遍路ー「四国旅日記」の紹介ー（松永友和＊）／28八十八ヶ所の成立（内田九州男）／29愛媛県最古の遍路日記「四国遍路記」（高嶋賢二＊）／30遍路の伝道師、菱垣元道（井上淳＊）／31小豆島霊場（田井静明＊）／32海を渡った四国霊場ー楢民地台湾の四国八十八ヶ所写し霊場ー（中川未来）／33吉田初三郎の描いた知多四国霊場の鳥諏図（山口由等）／34狭衣大将の高野粉河詣（その往路）ー伝慈鎮筆本『狭衣』をめぐってー（西耕生）／35狭衣大将の高野粉河詣（その帰路）ー伝慈鎮筆本『狭衣』巻三の発端についてー（西耕生）／36中世の高野山参詣と伊予（川岡勉）／37芝居の中の順礼ー『岸姫松轡鑑』の場合ー（神楽岡幼子）／38沖縄の巡礼「東御廻り」／39成尋の天台山巡礼（高橋弘臣）／40成尋の五畳山巡礼（高橋弘臣）／41中国・泰山巡礼（高橋弘臣）／42古代ギリシアの「巡礼」ーエレウシスの秘儀入信ー（齊藤貴弘）／43古代ギリジア・オリンピア巡礼（齊藤貴弘）／44聖ヤコプが眠る聖地サンティアゴ巡礼（山川廣司）
▼愛媛大学ミュージアム「聖地へのあこがれ」8/1～
新型コロナウィルス感染症拡大以降における四国遍路の巡礼（井口梓・渡邉洋心）／お接待所坂本屋が担う地域的な役割（兼子純・石黒聡士ほか）／明治期の四国新道計画と四国遍路（中川未来）／ホワイトホール・セノタフ：第一次世界大戦の遺族の「巡礼」（吉田正広）／「ロンドン部隊記念碑」と市民的愛国心（吉田正広）／聖地へのあこがれ（胡光ほか）
▼「四国遍路と世界の巡礼～愛大研究センター通信～」連載55胡光「神社も巡った江戸時代の遍路」（『へんろ』454、1/1）／56竹川郁雄「質問紙調査から見るお遍路さんの信仰心 現代の四国遍路」（同455、2/1）／57岡本佑弥＊「阿波国分寺の『屋根板』」（同456、3/1）／58青木亮人「香園寺の種田山頭火」（同457、4/1）／59西耕生「『花の下』の蹴鞠ー異本『狭衣』にみる『源氏』の受容ー」（同458、5/1）／60岡本桂典＊「インド・ネパール仏跡巡礼 釈迦の故城ーカピラ城跡ー」（同459、6/1）／ 61寺内浩「古代の辺地修行者と地域の人々」（同460、7/1）／62三好賢子＊「弘法大師の御影と四国遍路ー香川県の中世彫像からみるー」（同461、8/1）／63吉田正広「ロンドンの戦争記念碑ー巡礼と市民的愛国心ー」（同462、9/1）／64田島篤史「ドイツ語圏の巡礼ーアイヒシュテットに眠る聖女とヴァバルブルギスの夜ー」（同463、10/1）／65中根隆行「戦後日本における遍路の記憶ー『砂の器』の本浦父子像」（同464、11/1）／66齊藤貴弘「イストモス『巡礼』ーソクラテス唯一の外遊ー」（同465、12/1）
▼朝日新聞「しこく遍路考」連載（胡）
旅の形見落書きは語る（1/1）、四国日記に豪商接待記す（2/12）、善根宿探し案内本で情報（3/7）、寄り道途中お殿様に出会う（4/4）、道後に立ち寄り心身癒す（5/2）、成立の謎八十八カ所以外（6/6）、多彩な食文化交流の証（8/1）、札所の発展と大寺院・末寺（9/5）、本山寺歴史語る文化財眠る（10/3）、巡礼の原点象徴する「杖」（11/7）、弘法大師生誕地に諸説（12/5）
▼愛媛銀行『ひめぎん情報』「四国霊場を歩く」連載（胡）
神社も巡った江戸時代の遍路（298、1/）
【註】＊印は、センター外の協力者。

【研究・活動助成ならびに運営】
- 科学研究費基盤研究（B）「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」（研究代表者：胡光、研究分担者：西耕生、中川未来、青木亮人、研究協力者：内田九州男、寺内浩、竹川郁雄、川岡勉、神楽岡幼子ほか）
- 公益財団法人松平公益会（高松市）
- 一般財団法人久松常盤会（新居浜市）
- 愛媛大学四国遍路と世界の巡礼研究会を通した一般の方からの寄付金
- 愛媛大学基金への一般の方からの寄付金
- 愛媛大学人文学会
- 愛媛大学法文学部
- 愛媛大学社会連携推進機構

▲浅川泰宏氏講演

▲四国遍路と比較巡礼論シンポジウム

KAZE BOOKS 021

四国遍路と世界の巡礼（上）
―最新研究にふれる八十八話―

愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編

1200 年の歴史を有する四国遍路は、今もなお多くの人々を四国へ誘い、地域の人々もお接待で迎える、生きた四国の文化です。センターに集う学内外の多彩な研究者が紡いだ八十八の最新研究によって、四国遍路と世界の巡礼の魅力について紹介します。

四国から世界へ―

風ブックス 021
四国遍路と世界の巡礼（上）
―最新研究にふれる八十八話―
定価　1300 円＋税
創風社出版
〒791-8068 愛媛県松山市みどりヶ丘 9-8
www.soufusha.jp

【執筆者】

胡光（愛媛大学法文学部教授／センター長）　青木亮人（愛媛大学教育学部准教授）　井上淳（愛媛県歴史文化博物館学芸課長）
今村賢司（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員）　内田九州男（愛媛大学名誉教授）　大本敬久（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員）
岡本佑弥（徳島市立徳島城博物館学芸員）　岡本桂典（高知県立歴史民俗資料館副館長）　神楽岡幼子（愛媛大学法文学部教授）
川岡勉（愛媛大学名誉教授）　齋藤貴弘（愛媛大学法文学部教授）　田井静明（瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員）
高嶋賢二（町見郷土館館長兼主任学芸員）　高橋弘臣（愛媛大学法文学部教授／副センター長）　竹川郁雄（愛媛大学名誉教授）
寺内浩（愛媛大学名誉教授）　長井健（愛媛県美術館専門学芸員・担当係長）　中川未来（愛媛大学法文学部准教授）
西耕生（愛媛大学法文学部教授／副センター長）　野村美紀（香川県立ミュージアム学芸課長）
長谷川賢二（徳島県立鳥居龍蔵記念博物館長兼徳島県立博物館副館長）　松永友和（徳島県立博物館学芸係長）
松原潔（善通寺宝物館学芸員）　御厨義道（香川県立ミュージアム主任専門学芸員）　山川廣司（愛媛大学名誉教授）
山口由等（流通経済大学経済学部教授）

【愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター】

2015 年 4 月に法文学部附属センターとして発足。2019 年 4 月には、愛媛大学社会連携推進機構に所属する全学センターとなる。四国遍路の歴史と現代実態を学際的に解明するとともに、世界各地の巡礼との国際比較研究を行っており、その成果は研究紀要や調査報告書の刊行、シンポジウムの開催、愛媛大学ミュージアムでの展示などで公開している。

＊本書の研究は、ＪＳＰＳ科研費１７Ｈ０２３８６、２０Ｈ０１３０９の助成を受けたものです。
＊本書の刊行は、愛媛大学基金のうち四国遍路研究基金を活用しています。
＊愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター・ホームページ（https://henro.ll.ehime-u.ac.jp）。

執筆者一覧

浅川　泰宏（埼玉県立大学准教授／科研分担者）
近藤隆二郎（元滋賀県立大学環境科学部教授）
大本　敬久（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員／科研協力者）
胡　　光（愛媛大学法文学部教授／愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター長／科研代表者）
井上　　淳（愛媛県歴史文化博物館学芸課長／科研協力者）

【編集後記】

第８号の研究紀要をお届けします。本年度も関係各位の御協力を仰ぎつつ研究・教育活動を展開し、またそれらの成果を積極的に公表することが出来ました。まず取り上げるべきは、センターが2022年７月30日に刊行した『四国遍路と世界の巡礼（上）ー最新研究にふれる八十八話ー』（創風社出版）が、第38回愛媛出版文化賞第一部門（研究・評論）の部門賞に選定されたことです。「四国遍路の普遍的価値」を示したとの受賞理由は、センターの社会貢献活動を御評価いただいたものと大きな励みになりました。手に取りやすい新書版となっています。ご一読を賜れば幸いです。

10月29日の公開講演会・シンポジウムも無事開催することができました。入場者を制限したうえでの対面参加とオンライン会議システムによる遠隔参加の併用という形式も恒例となりつつあります。遠隔参加のメリットも活かしつつ、今後は入場制限の撤廃が早く実現することを願っています。また専門教育科目「地域フィールド実践」では、12月17日に「歩き遍路」授業を実施しました。JR宇和島駅から清水大師堂、光満の第21号へんろ小屋、41番札所龍光寺、仏木寺道を経て42番札所仏木寺まで歩き、バスで43番札所明石寺、十夜ヶ橋を見学し大学に戻りました。依然として参加人数は制限せざるを得ませんでしたが、参加者は蜜柑のお接待を受けるなど「歩き遍路」を満喫しました。

本号には、「四国遍路と比較巡礼論」をテーマに掲げた公開講演会・シンポジウムの成果、そして御投稿いただいた論考の計５本を掲載しています。社会学、空間体験構造論、文化財論、日本史学と多様な分野から四国遍路に迫る試みとなりました。是非とも御味読下さい。

新型コロナウイルスとの共存を見据えた活動展開を考える段階になりました。今後も何卒御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、刊行にあたり今年度も各論考の英文要約等を御担当いただいたモートン常慈氏をはじめ、編集、印刷に御協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

（中川未来）

＊表紙の写真：「最上のおふだふち」（浅川泰宏氏提供）
＊本誌所収の論文は、科学研究費補助金基盤研究（B）「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究（研究代表者：胡光）の成果の一部である。
＊本誌は、愛媛大学法文学部共通経費の配分によって刊行した。

四国遍路と世界の巡礼　第８号

発行日　2023年３月25日　発行
編　者　愛媛大学　四国遍路・世界の巡礼研究センター
センター長　胡　光
編集委員　中川未来
胡　光
発行者　愛媛大学　四国遍路・世界の巡礼研究センター
センター長　胡　光
〒790-8577　松山市文京町３　TEL&FAX 089-927-9312
E-mail：henro.center.ehime@gmail.com　URL：https://henro.ll.ehime-u.ac.jp
印　刷　アマノ印刷
〒790-0932　松山市東石井一丁目10-30　TEL 089-956-2442